

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	(有)アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家 2号館		
所在地	名古屋市緑区尾崎山1-1101		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成24年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく家庭的な雰囲気なかで利用者様と職員が寄り添い、いつも笑い声が聞こえる施設になるよう心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前に公園があり閑静な環境の下、利用者は喫茶店に行ったり季節によっては畑の世話をするなど、穏やかに日々を過ごしている。職員のバランスが取れており、そうした中で外部の研修にも自由に積極的に参加している。いつも笑い声が聞こえる様に、利用者と共に寄り添い支え合って行ける様に、又、利用者一人一人が生きがいを見つけそれぞれが役割を持って日々の充実につながる様に、常に問題意識を持って日々のケアに当たっている。利用者本人の意思決定を尊重し忍耐強く見守る姿勢を基本としながら、利用者家族とはこちらから早目にアプローチし、話し合える様心掛けており感謝の声も多い。利用者や利用者家族の笑顔の為、計画作成担当者を中心に業務の中で様々な構想があり、今後、地域の人々の中でも特に協力的な提携医療関係者や民生委員等、それらの人々の助けを借りながら利用者家族や地域への輪が更に広がって行くことが楽しみである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議では冒頭で読み上げるなど職員一人一人が理念のもと介護サービスを実践する事ができている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様から好評である踊りのボランティア、お話ボランティアについて継続実施できている。地域の参加については機会がまだ少ないので、アプローチ方法を検討している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学して頂けるよう、日中は開放状態での体制をとっている。電話での問い合わせにも対応し情報を提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催し活動報告、テーマを決めての勉強会、質疑応答を実施し、そこで出たご家族様や地域の代表者様方からの意見を参考に、サービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の生活保護課の職員と密な連携に努め、協力関係ができている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロをめざし、社内研修で職員一人一人の意識を高めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ゼロの徹底、マニュアルの常時閲覧可能な環境を整えている他、社内研修で勉強し意識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度を利用している入居者様がおられるので毎月支援員と連絡をとっている。職員も制度を理解し活用出来てきている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より契約について時間をかけてお話し、疑問にも十分説明し理解して頂くよう心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話での対応時や2ヶ月に1回の運営推進会議時など、積極的に意見交換をはかり今後の取り組みに活かしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で業務内容について話し合い、意見や提案について検討している。また管理者と個別に話し合える時間を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の要望を把握するように努めており 職員の希望する勤務にするよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は定期的に実施される社内研修を受講しており、職員のケア向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の相互訪問は頻度としては少ないが行っている。グループ内での定期的な交流会や行事を今後考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	音段の会話やケアプラン作成時などに利用者様が感じている事や要望を聞きだし、職員会議やケース会議で話し合い利用者様に提案したりケアプランで検討し同意を得る等行い、安心して生活できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とのコミュニケーションをしっかりと、納得がいくまで話をして信頼関係を築く努力をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様や関係者と連絡を取り、情報を集め、ご本人様ご家族様が困っている事、要望や能力について早急にアセスメントし支援を開始している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の経験や知識や思いを尊重し、知識や経験を働き掛けて随時職員に伝えて頂いたり、気持ちを受け止めどこまでも寄り添っていくような姿勢でいるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が気持ちにゆとりをもってよい関係を築いていけるよう、時には喜びあい時には相談しながらご家族様の思いを受け止めつつの支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力を仰ぎ知人友人を訪ねる機会を持って頂いたり、馴染みの店に出掛ける企画を実施する等している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で職員が細かい配慮を行い、利用者様同士の関係がスムーズにいくよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となっても、ご本人やご家族様が今後について不安がなく前へすすめるよう、他機関と連携をとりながら必要時相談支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケース会議を月1回開催しQOLの向上に努めている。会議までに入居者様の要望を聞いてそれをもとに会議で意向をくんだケアプランづくりに努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々人の生活歴や環境などを記録し、ご家族様から得た新しい情報もふまえ把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランをもとに日中、夜間の状況を介護記録に記載し職員間で評価し共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケース会議を開催し、開催前担当職員が入居者様アセスメントと要望をお聞きしご家族様の要望は計画作成者が伺い、要望に沿ったケアプランをケース会議で検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース会議で記録を記載する事の大切さも学び、同時に個別記録についても把握する事の意識を高めている。職員間においては申し送りノートを活用し常に情報交換に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケース会議で一人一人のモニタリングを行っている為、その時にボランティアや地域の社会資源を活用できるか話し合う事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご要望がある限り実施していて、特にない状況でも職員から働きかけ周辺地域を外出支援し生活の質の向上に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回往診を行って頂き、必要や要望があればかかりつけ医に受診介助する。または紹介状を書いて頂きご家族が他医療機関へすみやかにかけられるよう支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気がついた事は介護記録、介護詳細記録に記載するのでそれをもとに看護師に報告し、看護師は健康管理、介護士に対して医療的助言をし、適切かつ迅速な受診・看護がうけられるように図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の担当医に往診医の情報提供を行い、今後の治療計画の相談を行っている。退院時についても担当医・ソーシャルワーカーと連携し看護サマリーをもとに支援方法を決め、スムーズに入退院ができるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	地域運営推進会議の議題として取り上げ終末期について勉強会を開催し、事業所としてできる事の説明をご家族様、地域関係者の方々に行っている。また質疑応答の時間もとり不安や疑問も聞き情報共有に努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成しており、職員は年2回緊急対応の訓練を実施し、実践力の向上に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い入居者様にも参加して頂き、避難経路の確認や実際の避難の大変さを感じて、どうすればいいか施設全体で考えるような体制はできている。地域との協力体制については今後の課題である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議、ケース会議、朝の申し送り、社内研修などの機会に接遇の大切さや人格を尊重し自尊心を傷つけない事等、全ての介助について職員が意識を高める機会をもって介護を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人一人が気兼ねせず遠慮せずに希望・自己決定ができるよう信頼関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを職員一人一人が理解し要望を最優先に考えて、実現できるようにケース会議等で検討している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助はもちろん朝の時間帯にきちんと整容ができる時間を設けている。また2ヶ月に1回訪問理美容の提供をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や後かたづけは勿論のこと、入居者様のできる事を把握し、一人一人にあったサービスを提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量やバランス以外にも入居者様一人一人の嗜好について把握し、摂取しやすい環境を整えている。水分摂取の少ない入居者様に対しては摂取表を作成し把握できる環境を整えたりかかりつけ医に協力頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず声かけ、介助を実施している。義歯の有無にかかわらず口腔状態の悪い入居者様には訪問歯科との連携も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タイムテーブル式の排泄チェック表を用いて入居者様の排泄パターンを理解し失禁を減らしトイレで排泄する事や排泄行為の自立にむけた支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分や運動など便秘予防に注意しているが、それでも排便のない方にはかかりつけ医の指示のもと便秘薬で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を提供できる環境を整えている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団干し、シーツ交換(週1回)を行い、居室内温度にも注意しながら過ごしやすい環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人一人の薬の種類や用法などを医師、薬剤師の指導のもと理解し、内服後の変化についても注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事については女性入居者様中心に積極的に行っている。入居者様の要望、嗜好品は定期的にお聞きしてその方に合った支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご要望がある限りスケジュール調整した上で好きな場所に外出援助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財産管理はご家族様、権利擁護、成年後見人をお願いしていて、おこずかい程度はホームにて管理し、入居者様のちょっとしたご要望にも応えられるよう管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日ご家族様からかかってくるかたり随時かけてほしい方も、電話番号など情報は個人記録を事務所で管理し、いつでも支援できる体制である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によってフロアの装飾を変えて気分転換をはかったり、掲示板にイベント写真を貼って入居様だけではなく外部の方も楽しんで頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食卓テーブルを置き、どの方でもお話しやすい環境を整えている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていたものを自由にお持ち下さるようお願いし、リラックスして過ごして頂けるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症について社内研修などでの学びを継続しつつ、ご本人様ができる事をケース会議等で把握し、入居者様が混乱しないようにケアの統一を徹底し環境づくりに注意している		